

しまね学校図書館活用コンクール 取組の概要

学校名 松江市立乃木小学校

1 応募部門 ※ 応募する部門に○を付けてください。

() 読書活動部門

(○) 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

- ・学校図書館を利用することにより、学習のねらいを達成し、児童の学びを豊かにする。
- ・情報活用能力の育成を図り、読む力、書く力を伸ばす図書館活用教育をめざす。

3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

1. 年間計画に沿って計画的に取組を進める。

本年度は、新学習指導要領のもと図書館教育が重視された。6年間を見通して情報活用のスキルを身につけ、課題解決の手法として、図書館を有効に活用する力を育てたいと考え実践した。また、図書館を活用することで、児童の読む力書く力を伸ばすことをねらい、単元の中に図書館教育を位置付けて指導するようにした。

2. 学校図書館を活用した授業実践

(1)1年生の実践

学級活動「図鑑の使い方」(目次の意味と使い方)

国語の学習『どうやってみをまもるのかな』と関連づけて、学級担任、図書館主任、学校図書館司書とのTTで実施。同じ種類の図鑑を2人で1冊使えるように準備した。その際に、6月実施だったため、表記が平仮名で統一されているものを使用した。自館や公共図書館だけでは図鑑が足りなかったため、他校から借りて準備した。使用した掲示物やワークシートは図鑑とリンクさせて児童が調べやすいようにしたり、図鑑の写真と同じカードを用意し、目次を使って写真の生き物の名前を調べる活動ができるよう工夫したりした。

学級活動「図鑑の使い方」(索引の意味と使い方)

国語の学習『いろいろなふね』と関連づけて、学級担任が行った。

(2)3年生の実践

国語科「はたらく犬 もの知りカード」を書こう(要約・出典)

教科書教材『もうどう犬の訓練』で要約の学習→図書館で要約・出典、調べ学習→「はたらく犬もの知りカード」作りの学習の流れを設定。図書館での要約・出典の学習では、図書館に常時置いている情報カードを使うことによって、今後の調べ学習に発展しやすいようにした。調べ学習では、盲導犬・聴導犬・警察犬・タレント犬などの本を、児童1人に1冊ずつ手渡せるように準備し、学校図書館司書がはたらく犬のブックトークをした後、実際に調べる活動を行った。「はたらく犬もの知りカード」を書く学習では、ワークシートを用意し、情報カードを基に自分で言葉を補いながら文を書くようにした。

図書館での授業を国語科の単元の中に位置づけることで、児童は、要約の学習に必要感をもち、意欲的に調べ学習や書く活動に取り組んだ。

(3)5年生の実践

国語科「リテラチャーサークルで読書を楽しもう」

教科書単元『注文の多い料理店』の学習後、宮沢賢治の作品を読む場を設定。教師が提示した本から読みたい本をグループで選び、それぞれの役割にのっとった方法で読んだ後話し合うという「リテラチャーサークル」を取り入れた。役割読みをすることで物語文へのアプローチの仕方を知ること、友達と読み取りに関する意見を交流することで自分の読みを広げることがねらいにおいた。

一人ひとりが違う役割（今回は、思い出し屋、イラスト屋、しつもん屋、だんらく屋の4つ）で読んでいくので、個人での読みに責任をもって取り組むことができ、話し合いでは、友達の気づきや感じたことを新鮮さをもって受けとめることができた。また、個人での読み取りが深くなくても、その後の話し合いで友達の読み取りについて質問し合ったり、感想や意見を交わし合ったりすることで、自然に読みが深まっていった。そして何より、子どもたちが本について夢中で語り合う姿が見られた。多くの子どもたちが「また違う本でもやってみたい」という感想をもち、読書の楽しさを感じ、読書への意欲につながった。

(4)6年生の実践

国語科「読書感想文を書こう」

夏休み前に、6年生174名（5クラス）全員に読書感想文の書き方指導を設定。ワークシートに沿って読書感想文の書き方を指導した後、読書感想文の例文を示して、はじめ・中・おわりに書く事柄や引用の仕方を具体的に示した。その後、読書感想文に書きたい本を含む3冊の本を貸し出した。本選びに迷っている児童には、学級担任、司書教諭、学校図書館司書が相談にのった。読書感想文を書くことは、本との出会いを通して考えたことを表現する学習の場と考え、書き方を指導することと読みたい本に出会わせることを支援するようにした。

ワークシートは校区の中学校の読書感想文指導を参考にして作り、小中の連携を図るように工夫した。

4 実践の成果

- ・学校図書館活用年間計画に沿って学校図書館を活用した授業を計画的に行えるよう、指導案を作成して担任に渡し、共通理解を図るようにした。1000人規模の学校ではあるが、全ての児童に指導を行うことができた。
- ・例年2年生の5月に行っていた図鑑の使い方の指導を1年生の6月に行うのは、時期が早いのではないかという心配もあったが、平仮名の図鑑を用意したことで抵抗なく取り組むことができた。子どもたちにとって興味関心の高い動物や昆虫の図鑑を使ったことで楽しく学習できた。指導者が考えていたよりもはるかに子どもたちは目次についての知識があり、さらに索引を使って調べたり、使い方を説明したりする児童の姿も見られた。このような児童の姿から、来年度は同じ時期に目次と索引を1時間で指導することも可能であると実感できた。また、絵本ばかりでなく4類の本へ読書の幅を広げることができた。
- ・各教科にある学校図書館に直接関連する指導内容をとらえて、単元の指導計画の中に情報活用能力育成のための図書館での授業を組み込むことにより、目的や必要感をもった学習をすることができた。
- ・それぞれの読みの視点から本の内容や登場人物などについて話し合うことによって、一人で読み味わう以上に本の世界に親近感をもつことができた。また、進んで話したり共感的に聞いたりするコミュニケーション力を高めることにもつながった。